

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	下岡 多美枝
2 期 日	平成27年10月9日(金)～平成27年10月10日(土)
場 所	〒710-0054 倉敷市本町17番地1号 倉敷市民会館
内 容 (目的)	日本女性会議 2015 倉敷 ●思いやり 男女(ひと)が集う 白壁のまち ～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～
5 報 告 事 項	
第1日目：10月9日(金曜日)	
記念講演	
講師	池永肇恵
プロフィール	(内閣府大臣官房審議官)
演題	日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について
内容	我が国の現状は、ジェンダーギャップ指数は、142カ国中104位である。 日本は、いま女性の社会参加を一気に増やそうと、政府、民間挙げて、山積する課題を解く努力を始めた。 子育てや介護と、仕事の両立が可能となる環境を整備しなくてはなりません。 女性の役割についていまだ社会に存在する偏見を取り除くことが、なにより全ての基本など
感想	女性の参画の拡大その取り組みの環境整備など、日本社会の在り方を変える努力が必要で男女共同参画は、企業や自治体の経営戦略、地域戦略として不可欠と考える。
講師	竹内陶子
プロフィール	(NHKアナウンサー)
演題	魂の言葉を伝え～テレビの裏側・放送の現場から
内容	働く女性として、そして母として悩み、葛藤する日々を通して得たものは、ことばを通して何が伝えられるか、自分らしくイキイキと輝くヒントを聞く
感想	テレビで拝見するとおりで、ひたしみやすい話し方をされ夢と理想を発信されたNHK紅白歌合戦の総合司会をされた話のなかで、記者発表までの極秘事項があり、マスコミの世界の難しさを知った。

講師 上田紀行

プロフィール（東京工業大学教授・竹内陶子の夫）

演題 パッしない私が、「これじゃ終われない」と思ったときのこと

内容 人間はいくつになってもチャレンジできるし、人生を変えられる。
不安だらけの現在会社を生き抜く知恵、ストレスや不安に押しつぶられそうな人
目に見えるものだけを追って未来を想像することなど

感想 自分を大切にしたいと思える自分が核になる。

第2日目 10月10日（土曜日）

分科会（子育て）

パネリスト

講師 幸重 忠孝

プロフィール 幸重社会福祉士事務所代表

演題 地域で育むひとりぼっちのない子育て環境づくり

内容 商店街の空き店舗を活用した夜の生活支援
困難な地域課題を抱える小学校とコラボして通学合宿
青少年活動センターと協同して生活困窮家庭の無料学習会
困難校である小中学校を会場に地域の人を巻き込んだ放課後学習会や土曜体験
活動など活動報告

感想 安芸高田市は、生活に苦しい家庭が表面に見えにくいからこそ、厳しい現状の
生活を掘り下げて、手を差し伸べ、子どもの居場所づくりに取り組まなければなら
ない政策に生かしたい。

講師 三好 年江

プロフィール 新見公短期大学幼児教育学科助教

演題 地域を中心として協働型子育て支援

内容 学校を開放して子育て支援を行っている。学生も園内研修を行い、
子育て支援力の向上を図り育成を目的としている。

感想 保育者養成校とコラボして、子育て支援事業の展開をする事が保育者の人員確保
にもつながると考える。

記念シンポジウム

沖 陽子 岡山大学副学長

光畑 由佳 有限会社モーハウス代表取締役

渥美 由喜 東レ経営研究所

伊藤 香織 倉敷市長

演題 希望の社会は私たちにある

内容 女性も男性も誇りを持って活動できる社会に

感想

今回日本女性会議 2015 倉敷に参加して、男女共同参画の意味の深さを痛感しました。相手に対しての思いやり、一人ひとりの異なった考えを認め合う個々のところ、それぞれの壁を乗り越える事が、本当の意味の男女共同参画がスタートだと考える。安芸高田市においても、自分の地域さえよければ自分の家族さえよければと自己中心型ではなく、相手の思いやりが、空気のように自然に行動に出る町になることを願った。

Horizontal dashed lines for writing.

議員報告書

1 議員名	先川 和幸
2 期 日	27年 10月13日 ~ 27年 10月14日
3 研修先等	東京都千代田区 日本教育会館
4 内容(目的)	才14回 地方議会議員研修会参加 (主題 (人口減少時代)に地方自治体のあり方について)

5報告事項

10月13日(1日目)は「持続可能な地域経済の形成と地方自治体の役割」と題し鳥取大の多田教授の記念講演と、「小さな世界都市から環境創造都市へ」と題し北海道ニセコ町の山本課長の特別講演があった。多田教授の講演内容は(1)地域における地方自治体の位置付け(2)2000年代の地方財政の動向(3)地域経済の分析視角(4)注目すべき中国山地の事例(5)地域経済の持続的発展の条件、等につき、又ニセコ町の山本課長は町の「まちづくり基本条例」を基に、所得と協力を得るプロセス等の講演があり、とても参考になった。

10月14日(2日目)は「人口減少時代のまちづくりと財政」と題し名古屋市立大の山田教授による10回別講義を受講した。

- (才1講) 人口減少時代の自治体行財政
- (才2講) 「地方創生」政策の構想と現実
- (才3講) 公共事業と公共施設のあり方

この中で「地方創生」政策にどう対応するか、内々自治体の姿勢についての講義があり、今後本市の進め方の参考とした。

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期日	平成27年10月20日～平成27年10月20日
3 研修先等	広島市南区金屋町1017 7-7セア 広島
4 内容(目的)	地方議員研究会 元武雄市長 榎渡啓祐氏 特別講演受講。
5 報告事項	<p>10月20日 10:00～12:30 地方創生、地域活性化に 向け(基礎編) 14:00～16:30 地方創生、地域活性化に向け (応用編)を元佐賀県武雄市長 榎渡啓祐氏より講演を受ける。 基礎編では、武雄市での取り組み、フェイスブックを用いることで何が 起きたか、自治体経営の改革と情報発信、これからの地方議員に向けて 応用編では、100万人が来る図書館、自治体競争を生き抜く基幹所 武雄市での教育改革、ふなさと県内税制度の活用方法について講演した。 武雄市での取り組みでは新たにた物を生みだす力はないので組み合わせで 乗り切る、大きいところと組む、又ミシングが「入事」など、情報収集をしっかりとして 知の共有をいかり、指定管理者制度を使って進めた。1. 組み合わせ 2 スピード 3 笑い 4 見える化(人は見えるものでしか判断できない) この戦略を7か、政策 物語を作る。これからの地域の活性化には本屋、病院、住宅がキーワード。 流れをつくと口こみてる。いいものをついたら田舎だって関係ない。 100万人が来る図書館は公共施設整備基金を使い、スピードをもって進めていった。 補助金とか交付金は時間がかかる、あとで交付税で充当するはなし、など。 地方創生 地域活性化に向けて講師の体験からわかりやすく聞くことが でき、これからのいかしていきたいと思ひました。入事ものは事前に情報と 集めスピードをもって対応していきたいと思ひます。</p>

議員報告書

1 議員名	久保慶子
2 期日	平成27年10月20日～平成27年10月20日
3 研修先等	広島市南区金屋町1-17 ワ-7ヒア 広島
4 内容(目的)	元武雄市長 樋渡啓祐氏 特別講演 in 広島
5 報告事項	<p>ワ-7ヒア広島において、午前10時～12時30分、地方創生、地域活性化において「基礎編」14時～16時30分、地方創生、地域活性化において「応用編」を元武雄市長 樋渡啓祐氏から講演を受けた。「基礎編」では、武雄市での取り組み、フェイスブックを用いることで何が起きたか、自治体経営の改革と情報発信、これからの地方議員に向けて。「応用編」では、100万人が来る図書館、自治体競争を生み出す拠所、武雄市での教育改革、ふるさと納税制度の活用方法について話された。武雄市での実践例には学ぶところが多いと感じた。</p> <p>戦略1 組む合わせ 例は 放置自転車：ネットオフショ。戦略2 早い対応・スピード。戦略3 笑い はやりものに乗かる。人の流れに乗る。戦略4 見える化。人は見えるものでか判断できない。病院があると人は集まる。固定資産税を増やすのは、行政の責任である。これと言われた。ブランド力が上がれば、職員の仕事が出来る。地方自治体には株主がいらないから、決めれば即実行できる。ふるさと納税制度の個人枠は、今の状況ではほぼ人不足。これからは来年4月からの法人枠に期待する旨、一番位之から入れば、地方創生は、やり方ではなく、ストーリーである。議に出して、ゴールまで持っていかせると言われた。15%残りのものがあった。</p> <p>講師のフォローアップに関心を持って参加した今回の研修には、これから活動のヒントも多くあり、早速11月の講演を受講したいとの意欲も湧いてきている。</p>

議員報告書

1 議員名	金行哲昭
2 期日	2015年11月4日～2015年11月5日
3 研修先等	東京都千代田区内神田2-4-6 WTC内神田テレビ
4 内容(目的)	・社会保障とマイナンバー ・地域包括ケアシステム自治体の取組み ・少子化対策、生活困窮者対策
5 報告事項	<p>11/4日 (講師) 高木 融 社会保障とマイナンバー制度</p> <p>(講師) 東内 京一 地域包括ケアシステムと自治体</p> <p>まとめ ◎ マイナンバー制度を利用して、窓口ルール、電話訪問などの詐欺がふりど注意。 又行政事務が効率化、年金・福祉など申請時簡素化はとメリあり、市民への説明改善と考え付。</p> <p>11/5日 (講師) 竹林 謙 少子化対策 (講師) 鈴木 俊彦 生活困窮者対策</p> <p>まとめ ◎ 少子化対策における地域アプローチの推進 ◎ 妊婦・出産・子育ての切れ目のない支援 子ども子育て支援新制度 ◎ 若い世代の経済的安定支援の必要と 考え付。</p>

議員報告書

1 議員名	王、井直子
2 期 日	27年11月9日～27年11月10日
3 研修先等	神石郡 神石高原町 三和公民館
4 内容(目的)	中山間地域の諸課題解決セミナー
5 報告事項	<p>11月9日 12時30分から中山間地域の諸課題解決セミナーを受講しました。</p> <p>講演1. 「離島発! 地域再生への挑戦 この島で生き、この島で生きる」を島根県海士町職員の中斗集人氏に話を聞く。青森市出身の中斗氏は平成14年から平成20年まで比和郵便局に勤務。平成20年に海士町に移住し、役場の職員に任じられ、平成27年隠岐世界ジオパーク推進協議会へ派遣。ジオパークとは科学的に重要な、あるいは美しい地質遺産がある自然公園の一種で、地質遺産だけではなく歴史や文化、生態系などを含む総合的な公園。最近では「大地の公園」とも認識されています。世界ジオパークの基本的な違いは、隠岐ジオパークが隠岐地域の活性化を目的として世界ジオパーク認定を目指し取り組まれていること。海士町の「守り」の戦略的財政改革の断行、生き残るための「攻め」の戦略、一点突破型産業振興策として若者たちの挑戦、住民たちが主体的にまちづくりの先頭に立つ。自分たちの地域は自ら守り、地域の未来は自ら築くこと。また、自ら自立に向けて挑戦をしている海士町でした。</p> <p>講演2. 「ピースウィンズ」日本のまちづくりと取り組みについてを、NGOピースウィンズジャパン代表理事の天西健丞氏に聞く。ピースウィンズジャパンは1996年日本で生まれたNGO。必要の人に必要の支援を活動する。NGOの活動を広げるには政府・経済界など連携するための「基盤」が不可欠。神石高原町と共に進める施策などを聞く。2日目11月10日 9:00～事例発表とパネルディスカッションでは、1. EVカー促進事業について(移住支援)を鳥取県日南町役場企画課山中さゆり氏、2. 地域おこし協力隊について、神石高原町現役協力隊員小笠洋平氏、3. 地域生活交通対策について、安芸高田市役所政策企画課戸田邦昭氏から説明を受ける。最後に総括と中国新聞論説委員石丸賢氏に聞く。地域課題を地方創生の中に入れこむ。地元の意見を取り入れるためには、議員がしっかりと役割をはたさなければいけない等、とても考えさせられる内容のセミナーでした。</p>

議員報告書

1 議員名	久保慶子
2 期日	平成27年 11月 9日 ~ 平成27年 11月 10日
3 研修先等	神石郡神石高原町 三和公民館
4 内容(目的)	中山間地域の諸課題解決セミナー 受講
5 報告事項	<p>11月9日 13時20分から神石高原町三和公民館で開催された中山間地域の諸課題解決セミナーを受講した。</p> <p>1日目は、講演①「離島発! 地域再生への挑戦 この島で生き この島で活きる」講師は島根県海士町職員山斗隼人氏。青森市出身。H14~H20.3まで比和郵便局勤務。H20.4~海士町に移住し、町職員となり、現在は隠岐世界ジオパーク推進協議会入派遣。ジオパークとは科学的に重要なお宝は地質遺産がある自然公園の一種。地質遺産だけではなく歴史や文化、生態系なども含む総合的な公園。町をあげての取り組みについて説明を受ける。</p> <p>講演②「ピースウイング・ジャパンのまちづくり&取り組みについて」講師はNGOピースウイング・ジャパン代表理事大西健丞氏。NGOが神石高原町と共に進める施策と、NGOの取り組みについて話され、特にふるさと納税の額は興味深いものがあった。不用犬の殺処分0には、人間としての当たり前、責任感を持つことの大切さについて考えさせられるものがあった。2日目は事例①Uターン促進(移住事業)について鳥取県日南町役場企画課山中さゆり氏事例②地域おこし協力隊について神石高原町現役協力隊員小笠原平氏事例③地域生活交通対策について高松市役所政策企画課戸田邦昭氏からそれぞれ説明を受けた。それぞれの取り組みの苦労や工夫がよくわかった。総括として、中国新聞論説委員石丸賢氏が、中山間地域の課題は、古くて新しい課題。自治体消滅にまでおされない。定住と学校統合は、施策としての統一判がいる。</p>

地域おこし協力隊については、地から来る人だけでなく、一人一人出た出身者も有るのでと話された。

生活交通対策としては、今から課題となる認知症対策もいる。

地方創生の総合戦略について、政策の優先順位決定に議員の役割が大きい。

特に、戦略について、節目で提示させることの必要性をいわれた。

三元線について、なぜ必要なのかをどう説明できるかといふ大きな課題をいれた。

また、空き家対策で1ターンの最も代表はとついで来る嫁(むに)である。この方の意見を聞くことは、有効であるとのこと。

考えさせられることの大きいセミナーであった。

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	前 重 昌 敬
2 期 日	平成27年11月9日~10日
3 研 修 先 等	三和公民館 〒720-1522 広島県神石郡神石高原町小畠 2025
4 内 容 (目的)	中山間地域諸課題解決セミナー
5 報 告 事 項	
1日目 11月9日(月) 13:20~16:40	
(1)「離島発!地域再生への挑戦 この島で生き この島で生きる」	
島根県海士町職員 山斗 隼人	
・海士町:日本海の島根半島沖合約60kmに浮かぶ隠岐諸島の中のひとつ中ノ島を 「海士町」と言い1島1町の小さな島 面積:33.46km ² 周囲:89.1km	
・歴 史:後鳥羽上皇(第82代天皇)永久3年(1221年)に敗れ隠岐国・海士へ 御配流になる。「我こそは 新島守よ 隠岐の海の 荒き波風心して吹け」 小泉八雲隠岐旅行の際、菱浦港を最も気に入り長期滞在。「鏡ヶ浦」と命名。	
・人 口:現在2,345人、高齢化率40%・・・平成23年4月現在	
・現 状:超過疎、超少子高齢化、超財政悪化・・・島が消える?沈没?島民危機感	
・施 策:自立へ覚悟の選択・・・単独町制の道へ(平成15年12月) 生き残るためには・・・「守り」と「攻め」の両面作戦、 「海士町自立促進プラン」策定(H16年3月)・・・島の未来は自ら築く 「守り」戦略・・・行財政改革の断行。 自らの身を削らない改革は支持されない。(人件費削減) 「攻め」戦略・・・実行部隊の配置、交流促進課・地産地商課・産業創出課 一点突破型産業振興策・・・島ブランドを売り出せ「海・潮風・塩」	
・交 流:島おこしの起爆剤(若者・よそ者・バカ者)若者たちの挑戦 農業の復活を志す人、漁業を志す人、観光業を志す人、教育を志す人等	

・総合振興計画：「変」から「論」へ、住民が主体的にまちづくりの先頭に立つ！

・地域活性化の条件

- ①自分たちの地域は自ら守り、地域の未来は自ら築く！
- ②地域活性化の源は「交流」に有り！
- ③若者・よそ者・馬鹿者が「連携」すれば地域は動く！
- ④活性化とは意識の変革、惰性の仕組みを変えること！

ピンチはチャンス！ハンディキャップをアドバンテージに！
 自立に向けた挑戦に終わりはありません。

(2)「ピースウィンズ・ジャパンのまちづくり&取り組みについて」

NGOピースウィンズ・ジャパン代表理事 大西健丞

- ・社会変革へのチャレンジ・・・若い時代留学～紛争地帯経験～できないことを可能に
- ・犬、猫殺処分「0」へ・・・譲渡センター設置（現在2か所、広島・湘南）
- ・構想の策定・・・広島県「瀬戸内海の道」構想

「吉備・安芸ガーデン街道（仮称）」構想

先行例：「北海道ガーデン街道」実施

オーバーラップ構想「過疎地域医療＋国際緊急医療」へり運用
豊島プロジェクト等現実に事業実施中

- ・社会的金融・・・1、Uターンの人たちに必要となる出資金の貸出
やらせてみる！！姿勢大事

- ・NPOバンク・・・休眠している預金700億円（日本全体）

この預金をうまく基金として活用、基金の設立

※ 地域の為に使える基金＝地元を受け手をつくる！！

2日目 11月10日(火) 9:00~11:30

事例発表&パネルディスカッション

(1) 青年結婚|Uターン促進事業(移住支援)

発表者: 鳥取県日南町企画課職員 山中さゆり

(2) 地域おこし協力隊について

発表者: 神石高原町地域おこし協力隊員 小笠洋平

(3) 地域生活交通について

発表者: 安芸高田市企画政策課職員 戸田邦昭

総括: 中国新聞論説委員 石丸 賢

全体を通して・・・地方創生の総合戦略の優先順位

議会の役割、節目節目で中間報告受け、対策等出していく。

| (愛) ターンの先駆者・・・地元の嫁・・・大事、評価していく。

〔所感〕

- 地元市民がどれだけ危機意識をもっておられるか?後に後悔するのではなく、早い段階で色々な政策の情報提供をしていき、意識の改革をしていくことが必要とする研修であった。課題に対して、単体の地域で動くことなく、連携して行動していくことも大変勉強になった。こうした事業内容の情報を早くキャッチし執行部へ提案していくことが、議員に求められる。
- 今回の研修を礎に、誰が起こすのか、起こすためには、課題は何か等しっかり整理し議会全体で協議し繋げていかななくてはならない。

議 員 報 告 書

1 議 員 名	秋田雅朝
2 期 日	27 年 11 月 13 日 ~ 27 年 11 月 13 日
3 研 修 先 等	廿日市市宮島口西 1 丁目 1-17 安芸グランドホテル
4 内 容 (目的)	「地方が元気になる講演会」に参加
5 報 告 事 項	
(研修目的)	
<p>国が掲げる「地方創生」において、本市では「第 2 次総合計画」を基本として、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「人口ビジョン」を策定し、「人がつながる田園都市 安芸高田」の将来像の実現にむけた取り組みが、「どうあるべきか」・「何をすべきか」を考える必要があると思う。そうした中で、この講演会の内容が、テーマを「地方分権から地方創生時代へ」と「議会改革」とした基調講演があり、また、パネルディスカッションがテーマを「住民参画の議会改革への取り組み」として、市議会議員が「パネラー」として討論することとなっていたので聴講することとしました。</p>	
(研修報告)	
<p>この講演会は、第 1 部で基調講演、第 2 部でパネルディスカッションという構成になっており、午後 13 時 30 分から 17 時 30 分まで研修をしました。</p>	
<研修内容>	
第 1 部 基調講演①	
テーマ 「地方分権から地方創生時代へ」	
講師 北川正恭氏 (早稲田大学名誉教授 元三重県知事)	
要旨	
○地方自治の現状と議会改革の動向 (年代別に整理して講義)	
1995 年・・・地方分権推進法制定	
2000 年・・・地方分権一括法施行	
団体自治の推進により形式要件整備・官主導の改革等について講義される	
1995 年～2014 年・・・成長時代から成熟時代・受動的改革時代	
2015 年・・・地方創生時代 (主体的改革のはじまり)	
「まち・ひと・しごと創生法」制定	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民自治の推進により実質的要件整備を目指す ・ 産官学金労言 NPO 等、全体で改革 ・ 創生時代の地方議会の役割りについて 	

- ・ 議会不要論の解消について

第1部 基調講演②

テーマ 「議会改革を一步前に進める秘訣」

講師 松野豊氏（麗澤大学地域連携センター研究員・元千葉県流山市議会議員）

要旨

議会改革のスタンスとして、スティーブン・R・コピィー博士の「7つの習慣の原点—効果性のルーツ」のVTRを鑑賞する

- ・「7つの習慣」とは

- ① 主体性の発揮・・・自ら選択し、責任を持ち、影響を及ぼしていく。
- ② 目的を持って始める・・・行動する前に、価値観に基づき目的を見出す。
- ③ 重要事項を優先する・・・自分自身の方向性で計画を立て、実行する。
- ④ WIN-WINを考える・・・長期的な人間関係を構築する。
- ⑤ 理解してから理解される・・・コミュニケーションの質を高める。
- ⑥ 相乗効果を発揮する・・・革新的な解決策を生み出す。
- ⑦ 刃を研ぐ・・・知性・精神等を磨き、モチベーションと活力を向上する。

- ・ 議会基本条例制定状況について

合計 742 自治体が制定(全国 1788 自治体の約 4 割 平成 27 年 1 月現在)
例として、流山市議会基本条例を説明し、議会改革について講義される。

第2部 パネルディスカッション

テーマ 「住民参画の議会改革への取り組み」

- ・ パネラー

松野 豊氏 (元 流山市議会議員)

大田 裕介氏 (広島クラブ代表 福山市議会議員)

高橋 みさ子氏 (廿日市市議会議員 会派「成蹊会」代表)

- ・ コメンテーター

北川 正恭氏 (早稲田大学名誉教授 元三重県知事)

- ・ コーディネーター

林 紀行氏 (環太平洋大学 国際教育学科准教授)

要旨

- ① パネラーの各々の取り組みを発表

- ・ 高橋氏・・・成蹊会の取り組み、廿日市市議会の議会改革の取り組み
- ・ 大田氏・・・議会改革度ランキング、一般質問について
- ・ 松野氏・・・流山市議会の「アプリケーションコンテスト」の取り組みについて
- ・ 北川氏のコメント・・・改革は形式的なものだけではダメで、議会改革には議会事務局の強化が必要で、事務局の良し悪しで議会が変わる

- ② 「住民参画における議会改革」を進めるための必要事項について

- ・ 大田氏・・・「福山市山野町のまちおこしの例」での取り組みを発表
- ・ 高橋氏・・・会派の基本理念による取り組みでの対応、会派での報告会を 29 回開催
- ・ 松野氏・・・「他人ごとから自分ごと」にするのが議会であり、議員はその認識が必要

- ・ 北川氏のコメント・・・議員一人ひとりの本気度が必要である。

③ 若者の政治参画を高めるには

- ・ 高橋氏・・・若者を巻き込む広報誌づくりに取り組んでいる。
- ・ 大田氏・・・議員（議会）が若い世代に出向く必要がある。
- ・ 松野氏・・・鯖江市議会（福井県）の取り組みを例に意見を述べる
- ・ 北川氏のコメント・・・18歳選挙権について議会は本気で取り組むべきである。

（研修のまとめ）

北川先生の講演で学んだことは、地方創生へむけて今後は、永年取り組んできた地方分権が中心となり、議員としての認識を明確にしておく必要がある。そのためには、分権改革は形式要件整備であるので、官主導から住民主体となることが地方創生に繋がるということ認識しながら議員として対応していくことが大切である。また、地方創生時代とは、住民自治の時代となる必要があり、北川先生の講義にあった「産・官・学・金・労・言」が横の並びで連携し、創生時代の地方議会の役割りとして、市民が理解できる議会・議員となるように勉強していくことが大切であり、そのために政務活動費の有効活用が望まれる。講義の中で、「議会不要論の解消」の説明があったが、この対応として先に述べた地方議会の役割りを認識することや、松野氏の講義で学んだ、コピィー博士の「7つの習慣」を基本に、それを議会のスタンスとして遂行していくことが必要だと思いました。また、パネルディスカッションで学んだこともこの対応の一考と思われ、本市においても、これらを参考にして取り組んでいく必要があると考えています。

最後に、今回の研修目的である「本市が目指す地方創生」に向けた「本市の将来像」の実現には、「どうあるべきか」・「何をすべきか」ということに対し、議会として「見られる議会から見たくなる議会」を目指し、そこには絶えず「市民の声」を大切にした取り組みが必要で、個々の議員は、知識・資質の向上を図るために研修を重ねる必要があることを学びました。

議員報告書

1 議員名	青原 敏治
2 期 日	平成27年11月13日～ 年 月 日
3 研修先等	地方が元気に存る講演会 in 甘田市
4 内容(目的)	地方自治から地方創生時代へ。 議会改革を一步前に進める秘訣。 住民参画の議会改革への取り組み。
5 報告事項	<p>1. 13:30～15:00 講師 早大名誉教授 北川 正恭 先生 地方自治体の現状と議会改革の動向について時系列に講演 を頂戴しました。今、本市議会にも改革の進行を速くする必要 があると感じました。先生の講演内容を今後の議会活動 に役立てたいと思います。</p> <p>2. 15:10～15:50 講師 麗澤大学客員研究員 松野 豊 先生 議会改革を一步前に進める秘訣。千葉県、流山市議員の 経験を元に講演をされました。一つは主体性を発揮する こと、二つは目的を持って始める事から、とりわけ議会自体 をテーマにする、透明性を高める、参加を促進する 協働を推進する等、以上の内容を議会活動に実践したい と思います。</p> <p>3. 16:00～17:30 パネルディスカッション 参加者 松野 豊 先生・大田 祐介 福山市議・ 高橋 みよ子 甘田市議・北川 正恭 先生 林 紀行 環太平洋大学 准教授、下 議論され 大変参考になりました。</p>

(大)

(別紙様式2 ②)

議員報告書

1 議員名	前 重 昌 敬
2 期 日	平成27年11月17日～19日
3 研修先等	福島県文化センター 〒960-8116 福島県福島市春日町 5-54
4 内容(目的)	第10回全国市議会議長会研究フォーラム

5 報告事項

1日目 11月18日(水) 13:20～16:50

〔基調講演〕「大震災からの復興と備え」 五百旗頭 真 熊本県立大学理事長

〔パネルディスカッション〕「震災復興・地方創生の課題と自治体の役割」

コーディネーター 城本 勝 NHK福岡放送局局長

パネリスト 大滝精一 東北大学大学院経済学研究科教授

役重真喜子 花巻市コミュニティアドバイザー

山下祐介 首都大学東京准教授

金井利之 東京大学公共政策大学院教授

高木克尚 福島市議会議長

2日目 11月19日(木) 9:00～11:00

〔課題討議〕「震災復興と議会～現場からの報告」

コーディネーター 河村和徳 東北大学情報科学研究科准教授

事例報告者 伊藤明彦 陸前高田市議会議長

熊谷伸一 気仙沼市議会議長

平田 武 南相馬市議会議長

〔所 感〕

- 新たな事業やビジネスモデルを創出していくためにも、U I Jターンの動き、交流人口の増加を政策的に強化していく必要がある。
- 市民が自らのことを自分事として考え、できることを自ら実践していく流れと仕組みをつくることの必要が早急に求められる。地方創生はそうした人材育成の各層にわたる取組みと、そこに参加する市民のワークショップや提案などセットで動いていく必要がある。市民の誰もがまちづくりの主役になれるような人材教育への取組みと参加のしくみも必要である。
- 議会として、ぶれない重心の役割を果たし、地域社会と民間市場経済の動向に目を向ける必要がある。

議員報告書

1 議員名	山 本 優
2 期 日	27年11月 18日 ~ 27年 11月19日
3 研修先等	福島市春日町 5-54 福島県文化センター
4 内容(目的)	「第10回全国市議会議長会研究フォーラム in 福島」に参加、研修を行う
5 報告事項	
第1日目	
第1部	
	五百旗頭 真 氏(熊本県立大学理事長)の基調講演
	「大震災からの復興と備え」について講演された。
	被災の現状、把握、復興に向けての取り組み、等について講演されたが復興に向けて遅々として進行しない現状に憂慮されていた。
	予算措置がなかなかされない状況で、目的税として復興税制を制定することを提案されていた。
	オリンピック事業も重なり早期の復興が進まない現状、今後の対応が大変である。
第2部	
	パネルディスカッション
	「震災復興・地方創生の課題と自治体の役割」について
	コーディネーター 城本 勝 氏 NHK福岡放送局局長
	パネリスト 大滝精一 氏 東北大学大学院経済学研究科教授
	役重真喜子氏 花巻市コミュニティーアドバイザー
	山下祐介 氏 首都大学東京准教授
	金井利之 氏 東京大学公共政策大学院教授
	高木克尚 氏 福島市議会議長
	福島県の一般会計予算は900億円、除染費用は単独で1200億円である。それでも復興は遅々として進まない。

復興を進めるにはその地域に強力なリーダーが必要と考える。

国の地方創生戦略は、それぞれの地域で今までずっとやってきたことであり、タイトルを新しく変えただけである。今まで以上の地方創生戦略はあり得ない。地域活性化対策は以前からある。

東日本の復興もいまだ終わっていないのに新規に課題を取り立てることはおかしいのでは。今までの真の活性化対策をとりこみ努力するべきと思う。

議会の役割は地域の内発的な行動を先導するとともに国からの指導に右往左往しないことである。

議員は議員間討議をしっかり行い、論点をまとめ、深めて執行部にあたれば有用な議論となる。

市民の少数意見も取り上げクリアーで透明な議会をめざしてほしい。

震災復興だけでなく地方創生についても上からの指示でなく、市民と一緒に考え、行動してゆき、安芸高田市は安芸高田市で独自の活性化対策を考えてゆくことが大事である。

コーディネーターの役重眞喜子さんの歯に衣着せぬ発言は元行政職員であった経験から議会に対してのシビアな意見が出されていた。気をつけたいと感じた。

次期開催地は静岡市で開催される予定で関係者の皆さんが来年の再開を期待されてメッセージを出されました。

第2日目 課題討議

「震災復興と議会～現場からの報告」

コーディネーター 河村和徳 氏 東北大学情報科学研究科准教授
事例報告者 伊藤明彦 氏 陸前高田市議会議長
熊谷伸一 氏 気仙沼市議会議長

平成23年3月11日(金)14時46分 東日本大震災発生

陸前高田市 当日は本会議中であり議会は自然流会、市庁舎水没機能喪失、特別委員会を設置し随時常任委員会を開催し、所管事務調査、被災状況調査を実施。

被災者の住宅再建が優先課題であり。復興計画の作成、区画整理事業、等を実行、他議会との交流、大震災の検証を行ってきた。

気仙沼市議会 三陸の沿岸はリアス式の美しい海岸であった。

被災状況は地盤沈下70センチ、事業所、従業員の80パーセントが被災された。

復興計画、住宅再建、産業再生(日本一の水産都市)、観光産業、交通網の整備、医療の充実、を目指しスローでスマートな街と暮らしを目指す。

南相馬市

市議会対策会義を任意で発足させ4月14日まで毎日開催し、情報収集、要望を議会として集約し関係機関へ要望活動を行った。

復興はスピードが大事であり、世代を超えた長期的な戦いとなる。

セシウム137の半減期は30年であり、核燃料の取り出際に30年要する。避難生活の長期化により地域のコミュニティが崩壊してゆく。

このような課題に対して報告された。大震災の現状を見て大きな衝撃を受けました。安芸高田市も防災に対していろいろ取り組んでいるが現実には災害の危険度の少ない地域であり緊迫度は薄いけれども、いつ何時、どのような災害が発生するかわからないので常に準備は怠らないようにしたいと思う。